

## 2012年7月ヨセミテ

7月18日（水）

サンフランシスコを出てから4日目によくヨセミテの近くまでたどり着く。GPSが壊れてしまい迷い々々の末であったが、おかげで前夜は宿泊場所が見つからず、路上で明るくなるのを待つという始末であった。午前中は睡魔と闘いながらヨセミテ溪谷に向かってのダウンヒルを続ける。まもなく、国立公園の料金徴収所を通り、もうヨセミテは近いと思ってからの遠かったこと。どうも脱水症状にかかってしまったようで、ちょっと上り坂になると、もう自転車を漕ぐことができず、歩きながら自転車を引っ張っていく有様で時間ばかりが経って、夕方近くになってようやくヨセミテに着く。直ぐにキャンプ4受付に行ってみるが、案の定、満員となっていて、明日朝の受付を待つしかない。

このヨセミテはヨセミテロッジ、ヨセミテビレッジ、カービレッジの3区画からなり、それぞれが、宿泊施設、キャンプ場、各種ショップを有していて多少の距離を置いている。まずは全体図把握と、ロッジから順番に回ってみる。すると、途中でレインジャーに呼び止められる。大きい荷物の自転車をこの時間に押しているのは泊まる場所がなく不法宿泊をしようと疑われたようだ（実際そうなのだが）。何喰わぬ顔でキャンプ4だと言い逃れたが、自転車をどこかに置かなければまずいとヨセミテビレッジのショップの横に置いてカービレッジまで足を伸ばしてみる。しばらく滞在してショップの営業も終了したので、自転車を回収してからキャンプ4受付に戻ることにする。

さきほども書いたように、ヨセミテビレッジストアの横に置いておいたのだが、何を勘違いしたのか、ヨセミテロッジストアの横に置いたものと思い違いしてしまい、そこで自転車が見つからないのであせる。あちこち探し回っていると、不審人物としてまたもやレインジャーの職務質問を受ける。今晚はあきらめて明日明るくなってから探すこととしてキャンプ場受付に向かう。

キャンプ場受付には「この付近ではキャンプしたり、寝たりしてはいけない」と書いてあるので、少し離れたところにうずくまりながら仮眠する。

日付けは変わって7月19日（木）

3時頃になって、そろそろいいかと受付前に移動。まだ誰もいなかったが、明け方頃になると長蛇の列となり、果たして全員が宿泊を許可されたのであろうか。キャンプ4は当日受付枠がある外、多くのキャンプ場が一日20ドルなのに対して5ドルと安いのも人気のひとつとなっている。連続使用は最長一週間となっており、自分の場合は最短は2日でもいいのだが、ネット環境さへ良ければ、仕事上の問題もなくなるので、五日間くらいいてもいいかなと多目の予約をとる。

予約が終わったら、自転車の回収に向かう。ロッジショップ周辺を探しまわっても一向に見つからない。自転車はあちこちに置きっぱなしにしてあり、寄りによって私のような汚い荷物を盗む人もいないだろうし、仮に荷物だけ盗まれてもまさかあんなボロ自転車を盗む奴はおるまいと考えていたところ、自転車はロッジではなくビレッジの方にあることを思い出して急行して発見。これでツアーの継続が可能になった。

次はネット環境の調査であるが、結局3カ所とも宿泊用には無線LANを開放しているが、キャンプ利用者にはパスワードは有料でも教えていないようなので、ヨセミテからのブログアップロードあきらめる。

最後にクライミングガイドの手配であるが、ヨセミテビレッジの方は初心者向けの教室をやっているだけだが、カーリービレッジではルートガイドも行っているそうなので翌日行ってみることにする。

こんなことをして一日は暮れたが、キャンプ4に戻った時も今回是非立ち寄っておかなければいけないクライミングの聖地巡礼も行っておいた。それは1980年に当時あった山岳雑誌「岩と雪」の表紙にジョン・バーカーが登るミッドナイトライトニングという課題の写真が紹介されて、当時の日本のクライマーの実力では登る対象とすら考えられなかった困難さであり、これが日本のフリークライミングの夜明けを開いたといってもいいものであり、ぜひ実物を見ておきたいと思っていた。この岩自体にももっと困難な課題がたくさん作られたようだが、ミッドナイトライトニング自体であっても自分の実力では手も足も出ないので、近くにあった別の岩で遊んでお茶を濁した。



7月20日（金）

朝早く、カーリービレッジのクライミングガイド受付所に行ってみると、ガイドの予定はいっぱいで今日明日は無理だと言われる。ネット環境からヨセミテにそう長居はできない

のであきらめて外に出ると、ガイドの一人が追いかけてきて、4時からなら大丈夫かどうかと聞いてくる。現地では夜9時頃まで明るいし、今回予定しているナットアンドクラッカーというルートは4時間以内で終わると思うのでお願いすることにする。ルート名が妙に思われるかもしれないが、ヨセミテのフリークライミングの神様と言われたロイアルロビンスが支点としてハーケン代わりにナットという一種のクサビをクラックという割れ目に使って、岩に痕跡を残さないクリーンクライミングという概念を提唱した歴史的なルートであり、それが現在のフリークライミングにも引き継がれているものであるので、決して行動食としてナッツとクラッカーを持っていったから名付けられたものではありませんので念のため。

時間があいたので、どうしようかと思ったが、観光客に人気の高いグレイシャーポイントというヨセミテの展望台に昔とった何とやらでトレイルランニング（通称トレラン）をすることにした。観光客は車で往復するか、帰りだけは歩いて下るとガイドブックに書いてあったが、実際は登りも歩いている人は多かった。標高差900メートルを登り1時間半、下り1時間25分でゴボウ抜きしていったが、このタイムでは富士登山競争の完走はとてども望めません。それはさておき、ポイントからのハーフドームその他の展望は素晴らしく来て良かったと思った。



夕方からはいよいよナットアンドクラッカーというルートのクライミングである。



ナットアンドクラッカー 2 p 目



ナットアンドクラッカー 3 p 目



ナットアンドクラッカー 最終 5 p 目

日本のルートの比較では、ミズガキのベルジュエールよりは易しく、二子中央稜よりは難しいかなという感じですが、単に技術的な面よりもさきほどの歴史的な背景から見て感銘を受けるルートですし、楽しいルートでした。

これでとりあえずヨセミテでの目的を達して次の予定に移ることになります。

7月21日（土）

今日はトーウラミメドーズを目指しての長丁場なので、テントを引き払って早朝に出発する。距離自体は90キロ程度だが標高差は1000メートル以上という今回最大の難路でもある。

140号線をしばらくはゆっくりと下降して、20号線に別れてから長い登りが始まる。翌日以降もそうなのだが、追い抜いていく車やバイクから手を振られたり、おそらく激励の言葉だろうが、声をかけられることがしばしばある。何かに向かって進んでいる人間を見ると応援したくなるのは世界共通のようだ。

今回、計画を進めるに当たって、ヨセミテの宿泊事情がたいへん厳しいことを知ったものの、広義ではヨセミテに含まれるにしても、トーウラミメドーズはそれほどでもあるまいと高をくくっていました。ところが途中にあるおくつかのキャンプ場全てに満員の札がかかっているのを見て、今日はキャンプ場以外で寝るしかないと思ったものの、飲料として水その他で5リッターしか持参しなかったので、トーウラミメドーズの売店で水を購入する予定であった。

トーウラミメドーズは標高2500メートルもあり、今日の高度差は1400メートルということになって、6時を過ぎてもまだだいぶ遠い所にまでしか到達できなかった。背負っているサブザックの行動食は食べてしまったので、荷台のザックから食料を取り出そうとしていると、レインジャーの車が止まり職務質問される。時間も時間だし、キャンプ場で不法にテントを張ろうとしちるのではないかと疑われたようだ。何をしているのかと聞かれたので、これからトーウラミメドーズに向かうが、空腹なので食料を出しているところだと答えると、予約はしてあるかと聞かれたので、何くわに顔であると嘘をついた。最後にどこから来たのかときかれた。キャンプ4からだだと答えると、そんなに遠くからかと驚くとともに、この時間にまだ行動している理由も納得できたようで無罪放免となる。トーウラミメドーズの一角に暗くなる直前に着くとヨセミテの荒々しさとは別な優美な美しさに感動して、ここに滞在できないことが残念でならなかった。



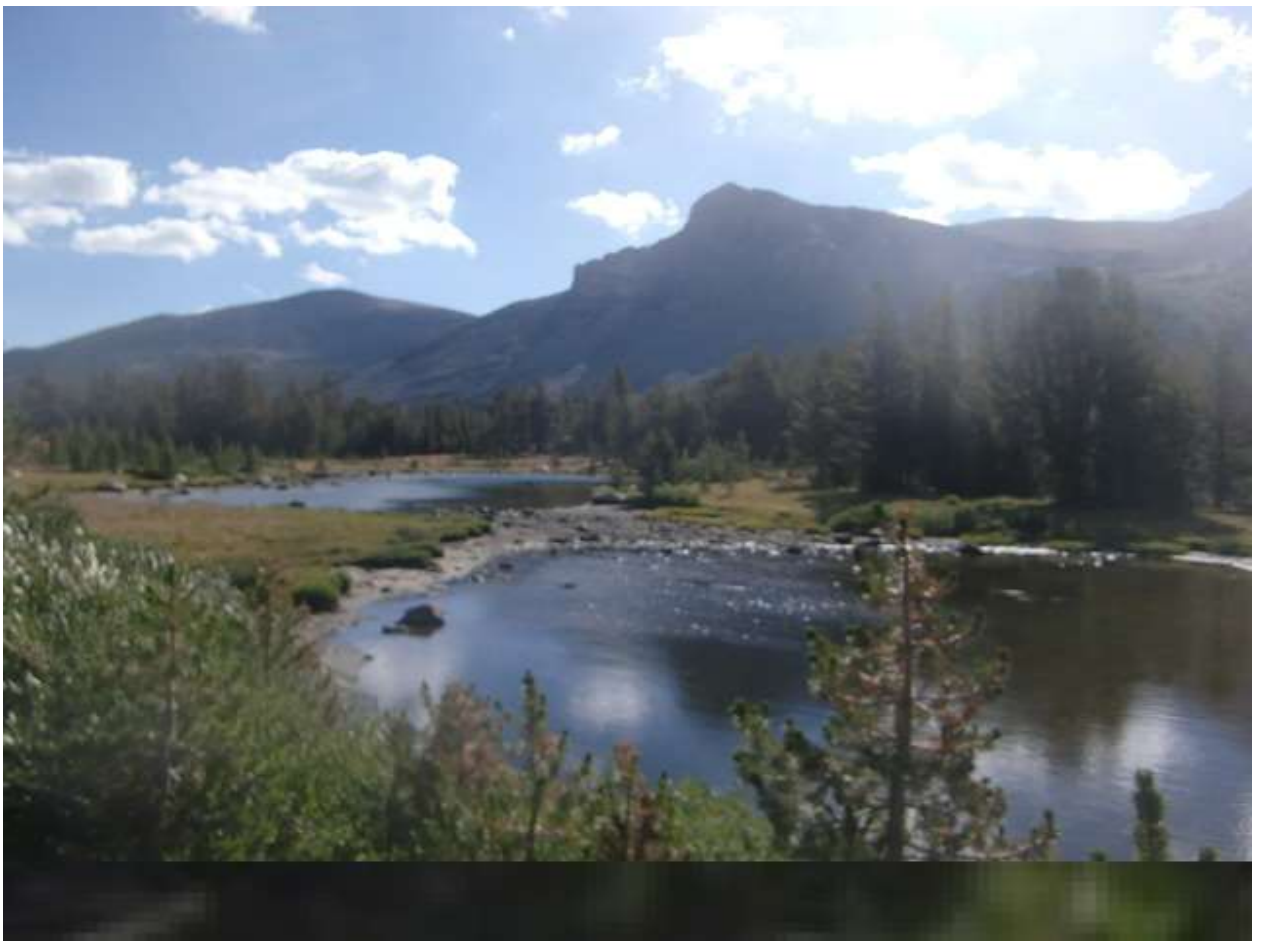
トーウラミメドーズの夕暮れ

トーウラミメドーズのショップには8時半についたのだが、ヨセモテと異なり、こちらでは1時間早い8時に閉店ということで水を買損なってしまった。やむをえずキャンプ場に行き、トイレの横に手荒い用の水道を見つけたが、果たしてこれが飲用かどうかは気がかりであった。

しばらく見ていると、何人かが飲用と思われるボトルに水を詰めているので、自分も安心して水詰めた。水が確保できたので、後は今日のねぐらをどうするかだ。あまりキャンプ場の近くだとレインジャーに発見される恐れがあるため、先を進むことにしたが、延々と登りが続くのには参った。道路脇に適当な場所があったので、道路を通る車から発見されない程度奥まったところで寝ることにした。さすがにテントを張ることははばかれたので野宿である。満天の星空が見事である。

7月22日（日）

地図で確認すると、まだ数百メートルは登るようであるが、右側の景色が尾瀬のスケールを数倍にしたような素晴らしいものなので、昨晚の暗闇に行く時と違い、さほど辛さは感じない。



翌朝のトーウラミメドーズ

最高高度2900メートルで下りに転じた。この高さが自分の自転車で越えた最高高度である。峠の先にレストランがあり、昨日はまともなものを食べてなかったのでハム入りのオムレツを食べる。お腹が一杯となってしまったが、その先は下り一方なので特に問題はない。下りきったところからは湖の点在する道に行くようになり、今日はこのまま終わるのかと思ったら甘かった。標高差300メートルの峠が待ちかまえていたのだ。昨日に比べれば標高差自体はたいしたことはないが、気持ちの準備ができてない分だけ、持ってきた水もほとんど飲んでしまった。峠から下り始めると遠方に湖が見えてきた。その畔にあ

るのが今日泊まる予定のブリッジポートの町のような。上から見るとそこそこ大きい町に見えたのだが実際に降りてみるとこじんまりした町である。その中で予め調べておいたホテルに泊まる、六日ぶりのシャワーと洗濯を終えた後、近くのレストランで無事ヨセミテに行ってきたことを祝って、ビールとステーキで自分だけの乾杯を行った。